

スペイン・アルメリアの施設園芸農業

—輸出拡大で躍進する農協グループの戦略—

理事研究員 堀内芳彦

1 スペインはEU第2位の野菜輸出国

スペインは、施設園芸で有名なオランダに次ぐEU第2位の野菜輸出国(2016年野菜輸出額58.9億ユーロ)で、その3分の2がスペイン南東部にあるアンダルシア州アルメリア県で生産されている。主な輸出品目は、ビニルハウスで10月～5月に収穫されるピーマン、トマト、キュウリ等で、冬場に生産できない他のEU諸国への供給産地となっている。

同県の温暖で日照時間が長いという気象条件を生かしたハウス栽培は50年の歴史があり、降水量が少ないため、点滴灌漑という効率的な灌漑法が導入されている。上記気象条件に加え、海沿いでも強風が吹かないこともあり、ハウスは、オランダ型の高軒高ではなく、百万円/10a程度の比較的簡易な構造である。また、冬場もほとんど暖房の必要がないほか、収穫等の季節的な農作業は東欧や北アフリカの外国人労働者を雇用するなど、低コストの生産構造となっている。

同県には3万haのビニルハウスがあるが、このうちエル・エヒド市が1.25万haを占める。同市の農業者の85%は家族経営(農地面積平均1.5ha)で、その営農指導・販売を担い輸出拡大を推進してきたのが農協である。なかでも、近年、輸出拡大で躍進している農協連合会・UNICAグループ(以下「Uグループ」)について

(注)
紹介する。

2 輸出拡大で躍進するUNICAグループ

(1) 加盟農協を増やし量販店との交渉力を強化

Uグループは09年に5農協で設立された農協連合会で、各農協の営農指導、選果場の統括管理と農産物販売、商品開発、生産技術開発を担う。設立目的は、加盟農協、組合員を増やし販売量を拡大することで、EU内の大手量販店等の顧客との交渉力を強化するとともに、各農協の品目別に特化した選果場の共同利用等でコストダウンを図り、組合員の利益向上を図ることにある。

現在、加盟農協は12農協に増え、グループ全体での組合員数は3,000人、生産面積3,800haで、野菜・果実(主要品目はピーマン、トマト、キュウリ、スイカ、メロン等)の生産量は、設立初年度の10年6月期10万トンから17年6月期30万トン(販売額3.2億ユーロ)に拡大、このうち90%を独・英・仏を中心に輸出している。

16年9月には、品目と出荷時期の多様化と



エル・エヒド市に広がる1.25万haのビニルハウス

販売量の拡大を図るため、同国最大の農協連合会・ANグループ(17年6月期販売額8.7億ユーロ)と共同出資で、両グループの野菜・果実を販売するUnica Fresh社を設立している。

(2) テクニコによる営農指導と品質管理の徹底

輸出拡大のためには、EU諸国の量販店等から求められる品質基準に対応していく必要がある。このため、Uグループは、各農協の共通のGAP規範となる農場管理規則を作成し、これに基づき各農協が営農指導を行っている。

営農指導のため、グループ共通の農場管理規則に、生産履歴シート、GlobalG.A.P.認証チェックリスト等を加えたフィールドノートが、各組合員の農場に配布されている。各農協で営農指導を担うテクニコ(農業技術指導員)は、1人あたり90~100ha(70戸程度)を担当し、フィールドノートに基づき、農場管理に必要なデータの提供と生産履歴の入力が可能な携帯端末を活用して、GAPも含めた営農指導を行っている。

また、体制面では、グループ内の営農指導・品質管理の情報共有・統一化を図るため、各農協のテクニコと選果場で品質管理・トレーサビリティ管理を担うQC(品質管理者)のマネージャーをUグループが派遣している。

加えて、農場での生産管理から集荷・選果、販売管理までを統合的に管理するシステムを導入し、生産から販売までのトータルでの業務効率化と品質管理、トレーサビリティ管理

の徹底を図っている。

(3) GlobalG.A.P.認証は輸出の最低条件

スペインは、EUの農業環境政策に基づくGAP基準と有機農業との中間に位置するIP(Integrated Production)という農業生産システム(総合的病害虫管理の技術に基づく生物学的管理農業により化学農薬等の使用を削減)を推進している。アンダルシア州にはこれに基づくIP認証制度があり、各農協は、この認証取得を組合加入要件としている。こうした背景もあり、量販店からの要請による組合員へのGlobalG.A.P.導入(Uグループが団体認証を取得=組合員全員が認証取得)は円滑に対応できたようである。

なお、GlobalG.A.P.はEU向け輸出では最低基準であり、TESCO(英国)等の大手量販店からは差別化戦略としてより厳しい品質管理の独自認証基準が要請される。また、集荷・選果場でBRC(英国小売業協会)等の食品安全認証のほか、GRASP、SMETAなど人権、労務等の倫理基準認証取得の要請もあり、Uグループではこうした認証も取得している。

3 JAグループへの示唆

Uグループの経営戦略は、小規模な家族経営農家を束ね、地理的条件、気象条件を生かした低コストの生産体系をベースに、生産現場の営農指導から集荷・選果、販売までを統合的に管理・運営することで、販売先の厳しい品質管理基準に対応し販売額を拡大しようとするものであり、JAグループにも参考となる事例といえよう。

(ほりうち よしひこ)

(注)紹介内容は、(一社)日本生産者GAP協会が17年11月に主催した「世界のGAP先進地スペイン視察ツアー」に参加し、同グループにヒアリングしたものである。なお、スペインはGlobalG.A.P.認証農場数で世界第1位。